指導案⑪

**地震防災　学習指導案**

年　月　日（　）第　校時

学年　　　高学年

児童数　　　　名

場所　　　　教室

指導者

**１　題材名**　「一日前プロジェクト」

**２　題材について**

　（１）生徒の実態

（小学校の立地、生徒の人数、特徴などを書く。）

　（２）題材設定の理由

　　　地震防災の学習は以下の内容を基本とする。

* ハザードの理解（なぜ地震が発生するのか）
* 地震への備え（ハードとソフト）
* 地震発生時の対応（直後の身を守る方法から避難、救出・救助、支援、避難所生活など）

日本ではどの地域に住んでいても地震被害にあう危険性がある。首都直下地震や南海トラフ巨大地震など、近い将来に必ず起こると言われている地震だけではなく、各地で「まさか私たちが地震に会うなんて」という状況が発生してきた。

そのため、小学校高学年段階では「ハザード」「備え」「災害対応」すべてにおいて正しい知識と防災推進の姿勢を身につけておく必要がある。

本時ではその中でも特に備えの大切さに気付かせるために、地震発生の一日前に自分を置き、できる対応を考えさせる。

**３　評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への  関心・意欲・態度 | 集団の一員としての  思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての  知識・理解 |
| 評価規準 | 自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。 | 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。 |

**４　事前の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生徒の活動 | 指導上の留意点 | 目指す生徒の姿と評価方法 |
|  |  |  |

**５　本時のねらい**

本時では「明日地震が発生する」という仮定の下、今の自分にできる対応を考えさせる。話し合いの過程で地震というハザードの理解と被害を想定するために必要な知識の大切さ、備えの在り方を学ばせたい。

**６　本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 | 目指す生徒の姿と評価方法 |
| 導入 | 自分たちの住む地域に地震が発生する危険性があるかどうか、自分は将来地震の被害に遭うかどうかを考える。 | 将来、地震の被害に遭うかどうか、考えさせ、発表させる。その際、阪神・淡路大震災の写真を見せ、「この地域の人々は、地震はないと思い込んでいて、甚大な被害を受けた」という事実を伝える。 | 写真の中の被害と自分の日常の生活を結びつけて考えようとしているか。 |
| 展開 | 明日、地震が発生すると仮定する。今日のうちにできることを考えて、グループで話し合う。 | 地震の被害について、阪神・淡路大震災を例にとって事前に説明しておく。  話し合った内容は発表するために模造紙などにまとめさせる。  例えばこんな方法はどうだろうか。  ①　個人で何をするか、10の活動を考える。  ②　グループで意見交換する。  ③　グループで話し合って10の活動に絞る。  ④　10の活動に1番から順に優先順位をつける。  ⑤　発表する。 | 話し合いに前向きに参加しているか。 |
| グループで考えた対応を発表する。 | グループごとに自分たちが考えた対応を発表させる。 | 発表した内容が妥当であるか。  　他の生徒たちの発表をしっかりと聞けているか。 |
| まとめ | 発表した行動をすでに行っているかどうか、自分のことを考える。  日本ではどこでも地震が発生する危険があり、そのための備え、地震発生時の対応を学んでおく必要があることを知る。 | 「発表した行動をすでに全部やっている人は手を挙げてください」と、生徒たちに行動化しているかどうかを聞く。地震は私たちに無縁のものではないこと、備えれば被害を減少させることができることを伝える。 | 知識を持っているだけではなく、行動することの大切さに気付いているか。 |

**７　事後の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生徒の活動 | 指導上の留意点 | 目指す生徒の姿と評価方法 |
|  |  |  |

以上